

地域社会の様々な人・物・事象との出会いや様々な経験を通して、意思の芽生えや表出を促すとともに、地域生活を営むための社会生活力のエンパワメントを図ることにより社会参加の機会が確保され共生社会の実現を目指す

(一社) 福岡市民間障がい施設協議会
生活介護部会研修会

～社会生活支援実践発表～

日時：令和5年2月10日（金）17時～19時半
（入退場自由）

場所：おおほり苑（中央区鳥飼2-4-16）

* 駐車場はございません。近隣のパーキングへ。

【問い合わせ】

児童発達支援センターこだま（増山）

TEL：558-1957

社会生活支援ポスター発表

17時から19時半の間で、自由におおほり苑内に掲示されているポスターをご覧ください。発表者と来場者のやりとりをお楽しみください。



結

(中川 祐貴氏)

「金銭管理を通じた社会生活支援」

27歳、統合失調症・軽度知的障がいのKさんには、激しいこだわりや不安があり、外出時には「人にぶつかっていないか」「怒られていないか」等の脅迫観念を打ち消すための脅迫行動が！そんなKさんが自身で金銭管理を行うことに。サービス利用料、小遣い、家族への生活費など、職員と一緒に管理することとなるが...



四箇厚生園

(渡邊 心平氏)

「利用者様も地域の一員となれるように」

地域にはどんな資源があるのか、見つけたお店や公園などから地域マップを作成。地域マップを使って利用者自ら場所、活動を選択し、またお店を取材して園内新聞を作成するまでに発展。コロナ禍において地域の一員としてお互いに支え合える関係づくりを行うことができた！



おおほり苑

(河村 勇次氏)

「強度行動障がいの方への支援とは～困っているのは誰？～」

強度行動障がいのKさんは常にマンツーマン支援。隙あらば破壊行動や他害などの行動問題へ発展。そんなKさんが様々な社会参加の経験や充実した日々を過ごすことで、行動問が軽減。これまでの支援の経緯やこれからの支援...また、誰のための支援なのかを考える。



ももち福祉プラザ

(馬場 明子氏)

「伝えられる、分かり合えるコミュニケーション支援」

不適切な行動で意思表示をしていたAさんが、自分の活動を選び、スケジュールを自分で作り、筆談で意思を表出できるようになり、今では余暇活動のために仕事に取組み、得た工賃で余暇を楽しんでいます。伝えられる、分かり合えるコミュニケーション方法を獲得し、日中を穏やかに過ごせるようになりました。4年間にわたるコミュニケーション支援の事例。

参加申込書

おおよその参加者数を事前に把握するため、申込書を1月31日までにお送りください。もちろん当日参加もOKです。
たくさんの参加者をお待ちしております。

事業所名	
参加者名	

<申込先>
児童発達支援センターこだま（増山）
TEL : 558-1957 / FAX : 558-1958 / Mail : Kodama@fukuoka-ssc.or.jp